

# ごん吉くんしポート〜南吉もやま話〜

## 第19回

## 教科書教材としての南吉と賢治

今年は昭和31年に初めて「ごんぎつね」が教科書に採用されてから、ちょうど60年になります。初めはひとつの教科書会社が採用しただけですが、昭和40年以降、改訂の度に採用する会社が増えていきます。知多半島で長年使われている光村図書の教科書に載ったのは昭和46年のことです（写真）。小学4年生、10歳で習う教材ですから、知多半島で昭和36年以降に生まれ育った世代は、誰もが学校で読んでいることになりました。

とうとう昭和55年からは全ての教科書に掲載され、今日に至るまで全社採用が続いています。これまでに教科書で「ごんぎつね」を読んだ人数は六千万人を超えます。これほど長期間、かつ完璧な形で採用され続けている文学教材は他にありません。

よく比較される宮沢賢治の場合はどうでしょうか。賢治の作品は、終戦翌年の混乱の中で発行された暫定教科書に、早くも「どんぐりと山ねこ」が掲載さ

れています。南吉は昭和28年の「おじいさんのランプ」が最初です。7年後輩ということになります。

その後、南吉も賢治も小中学校合わせて様々な作品が教科書に載るようになります。ところが、南吉の場合は昭和50年代から次第に「ごんぎつね」と「手ぶくろを買いに」に集約されていきます。これに対し、賢治の場合は各社が独自の作品を採用しています。知多半島で小学校教育を受けた人たちにとって、教科書の賢治作品といえは6年生の「やまなし」ですが、この作品を採用しているのは光村図書だけで、他社では5年生で「注文の多い料理店」「雪わたり」などを読みます。

また、難解とも言われる「やまなし」ですが、以前は中学校の教科書に載っていました。逆に小学校の教科書に載っていた作品が中学校に移るということも起きています。

どの作品を、どの年代に読ま



7月16日から南吉記念館で特別展「教科書で出会ったごん〜南吉作品教材化の歴史〜」が始まるよ。

せるか、子どもには難しい面もある賢治作品だけに各社が試行錯誤をしてきたといえるでしょう。こうした賢治の状況を見ると、どうして南吉は「ごんぎつね」に集中するのか、わかってきます。次回は、その人気の秘密をご紹介します。



## ふるさと半田応援団会議の参加者を募集します!!

半田市の魅力やその発信方法などについて考える「ふるさと半田応援団会議」を新たに発足します。今年度は半田市の魅力をどうやってセールスしていくかなどの戦略（シティプロモーション戦略）を策定します。気楽に参加できる内容を予定していますので、ぜひご応募ください。

■日時 8月～平成29年3月（全6回）

第1回は次のどちらかにご参加いただけます。

①8月24日（水）19時～21時（半田市役所）

②8月27日（土）9時30分～11時30分（半田赤レンガ建物）

第2回：9月24日（土）、第3回：10月22日（土）、第4回：11月19日（土）、

第5回：1月21日（土）、第6回：3月中（時間はいずれも9時30分～11時30分）

■場所 半田市役所、半田赤レンガ建物

■対象 高校生以上なら、どなたでも

■申込み・問い合わせ 氏名・住所・所属（学校、企業、団体などに属している場合）・

性別・年齢・第1回の参加日・電話番号を、はがき、FAX、Eメールなどで企画課へ

〒475-8666 半田市東洋町2-1 企画課 ☎84-0605 ㊟25-2180 Eメール kikaku@city.handa.lg.jp

